



器械製造所設立意見





器械製造所設立ノ意見

歐米諸國が今日、開明ヲ極メ富強ヲ誇リ
東洋諸國ヲ蔑視スル所以、モ、他ナシ、貧富ノ
懸隔、人智ノ高低、彼我對等ノ比較ヲ得サルニ
因ル、若シ夫レ我國ニシテ大ニ開國進取ノ氣象
ヲ發揚シ、百科ノ學藝ヲ實施シ、事業ノ秩序
ヲ違エス、着々歩ヲ進メ、遂ニ彼我對等ノ位
置ヲ得ルニ至ル、決シテ難キニ非サルナリ、然レトモ
彼亦駸々乎トシテ進歩已マサレハ之レト相馳騁セ
ンニ、我レハ數倍ノ速度ヲ以テ進マサルヘカラス
之ヲ為ス、如何茲ニ方策、在ルアリ、請フ之ヲ説

大正十一年四月

也田製

カン

夫レ文明トハ學術ノ應用ヲ意味ス然リ而シテ百科ノ學ニ於テ工學ヲ主トシ工學中器械學ヲ以テ最モ緊要トス凡ソ世界ノ進歩ハ物ヘテ器械ニ賴ラザルヘカラス外國トテモ有益ナル器械ヲ發明スルモノハ僅ニ指ヲ屈スルニ足ルノミ然レトモ能ク是レヲ利用スルヲ以テ凡百ノ學術應用隨テ起ル是レ今日彼国日新進歩ノ形勢ナリトス故ニ我國モ亦全国民ニ器械思想ヲ發達セシメ外國ノ發明器械中其萃ヲ抜キ最モ我國ニ有益ナル器械製造ヲ應用シ一方ニ外國ノ輸入ヲ制止スルト同時ニ我國ノ事業ヲ擴張セ

ハ必スヤ莫大ノ利益ヲ占有スルヲ得ベシ
大事業ヲ起スニ株式組織ヲ採ルハ策ノ得タルモノニアラス是レ大事業ハ操敏ニ秘密ノ運動ヲ貴フヲ以テナリ維新以來岩崎三井家ノ益々繁昌シタル所以モ、株式組織ヲ用ヒスシテ個人若クハ合名會社ノ組織ヲ採リシカ故ナリ予ハ信スラク須カラク資本ヲ大ニシ業務ヲ草一ニシテ此好時運ニ乘シ大ニ為ストコロアルベシ
維新以來泰西文物ヲ輸入シ僅々三十年間ニ於テ一瞬千里ノ進歩ヲナシ人智ノ發達亦往昔ノ比ニ非ルハ固ヨリ喋々ヲ待ザレドモ退キテ考フハ尚一層急進シテ得ラル、ノ途ナシト

セス是レ具眼者ノ識ルト言ナリ且ツ日清戦捷
以来慧眼ノ歐米人ハ我レニ對シ多ク警告戒
ヲナシ愈々優勝劣敗ノ真理ヲ施行セント欲
ス吾人ハ深ク之ヲ鑑ミズンバ生存競争ノ場
裡ニ敗ヲ取リ彼我ノ貧富強弱益々懸隔シ
圭角ヲ現スル機會ヲ得ズシテ却テ遂ニ劣
等國ノ列ニ班スルニ到ラン而已今日ハ武ヲ用
ユル、時運ニ非ス工商ヲ置テ外國ト輸贏ヲ
争フ、道トテハ一モアラザルナリ

歐米各國ニテハ自國ノ器械輸出ヲ以テ其ノ
衰頽ヲ招クモトシ諸製造業者ノ大ニ非
難スルトユロトナル我國戦捷以來彼等ハ益々

恐怖心ヲ惹起コシ從前ノ如ク廉價ニ機械ヲ
輸出スルヲ快トセス且ツ彼國勞金ノ増加需
用艱乏ナル等、原因ニ依リ當時我國輸入ノ
器械ハ益々其價ヲ騰貴スルノ傾キアリ去ル世
七年予カ英國滯在中諸紡績所ノ固定資
本ヲ調査セシニ錘一本ニ付金六円四拾錢乃
至七円八拾ハ錢ニ當レリ(地所代價ハ含有セス)而
シテ我國平均一錘ノ費用ハ拾七円乃至貳拾五
圓ナリトス我國ノ建築材料職工賃金等、
低廉ナルニモ係ハラス斯ク高價ニ當ル所以輸
入器械ノ不廉ナルヲ証スルニ足レリ又外國ノ
器械製造方法ヲ親シク觀察スルニ我國ト

異ナル点ハ分業ノ法ヲ以テ職工ヲ使役スルト
ト人力省減器械ヲ巧ニニ應用スルトノ二項トス
紡績織布等ノ如キ精巧ナル器械ト虽モ技
術上我國ニ於テ製造シ能ハザルノ理由ヲ見
ズ唯器械製造熱心者が大規模ヲ以テ此等
ノ業ヲ企圖セザルガ故ニ未タ此等ノ器械製造
ヲ見ザルナリ我國ノ位置タル大ニ工業ヲ起シ
富國ヲ為スニ適セリ然リ而シテ未タ充分ニ事
業ヲ起ルヲ見ズ今ヤ内地雜居モ其期近キニ
迫レリ今日ノ急務ハ宜シク興スヘキ事業ハ速ニ之
ヲ創始シテ彼外人等ヲシテ手ヲ出スベキノ余
地ヲ殊サザラシムベシ器械製造ノ如キ一層

之ヲ隆盛ナラシメ世ノ工業者ノ為メニ最僅ノ固
定資金ヲ投シテ其目的ヲ達セシメントテ企
圖セズンバアルベカラズ夫レ器械ハ開明ノ利器ニ
シテ其應用愈々類繁ナルハ開明ノ度ヲ進ケル
ノ徴ナリ艦船汽車ノ大ヨリ燈火縫器ノ小ニ至ル
迄一ニ器械ニ依ラザルハナシ方今百般ノ事業愈
々勃興スルノ時ナリ此時運ニ際シ供給其道ヲ
得サレハ已ムヲ得ス之ヲ海外ニ仰グノ拙策ヲ
取ルニ至ラン然ラハ則テ富ニ國家理財上ノ損、
ミナラス亦國民ノ無智不能ヲ発表スルモノシテ
實ニ帝國ノ耻辱之ヨリ甚ダシキハナシ我大坂ハ
日本帝國ノ一大製造都會ニシテ運送ノ便石

炭ノ廉ト職工ノ乏キトニ由リ器械ノ新製及ヒ修繕ノ費用最モ廉價ニテ為シ得ルノ望ミアルハ他ニ其ウ比チ見サル処ニシテ獨リ此地ノ特有ト云モ可ナリ實ニ器械製造所適宜ノ地ト云フベシ近年工業ノ繁榮ヲナルニ從ヒ阪神間ニ器械製造業日チ追テ起ルト虫モ一二工場チ除ク外ハ所謂町鍛冶屋ニシテ器械ノ原理チモ知ラス資金モ無キ微カ職工者流ノ營業ナレハ其規模甚々小ニシテ未タ世ノ需用チ満足セシケル能ハザル一余ノ親シク目撃シ常ニ痛嘆ヲ思想チ抱ケルトコロナリ是ニ於テ完全ナル一大器械製造工場ノ設立チ企ツルニ至ル是レ當ニ吾人一己

ノ利益チ得ント欲スル為メノ一ニ非サルナリ余ハ器械工學専門家ニシテ明治十三年以來阪神地チ去ラス一ニ器械製造ノ事業ニ熱心シ竊思ヘラシ直接或ハ間接ニ本業ノ進歩チ誘導シタル一蓋シ鮮少ラ非ルナリ此十七年間ノ星霜ヲ費シテ余カ得タル所ノ職工使役法、器械製造法及ヒ工場經濟、器械使用上ノ習慣、學術應用等ノ經驗ニ至テハ余自ラモ新大工場チ擔任スルニ余リアルト確信シテ疑ハサルナリ今予カ設計ニ係ル工場ノ目的及豫算ハ載セテ別帛巾ニ在リ願クハ余ノ敬愛スル紳士各位該業ノ創立チ贊成セラレテ若干ノ資金チ授セラレントキ

希望スト云

明治三十年拾月十六日

工學士岡

實康

敬白

位置

本工場位置ハ海或ハ大川ニ臨ミ或ハ鉄道停車場ニ接近ノ地ヲ宜トス

目的

本工場事業ハ当分大小蒸気機関汽罐鑛山用唧筒、及ヒ捲上器械、消防唧筒(蒸気弁入力共)達摩唧筒、遠心力唧筒、水車各種鑄鉄管、鑄鉄橋臺及車軸、草車等、製造弁ニ修繕ヲ以テ当初ノ目的トシテ高ラ製鉄器械海産物乾燥器、寒天製造器械製茶、製糸

器械ノ研窮ヲ為シ大ニ我國產ヲ發揚シ俾セテ
熟練篤實ナル操業業者ヲ養成シ以テ斯道
ノ増進ヲ計ラントス

器械製造所設立費用概算

114
A 3951
2

器械製造所設立費用概算

大正十一年四月

池田製

一金七萬圓也

右ハ全工場敷地家屋建築及諸器械据
付費惣高左之内譯書、通

内譯

工場地所并ニ家屋

一金壹萬貳千八百圓也

右ハ工場敷地壹千六百坪買入并ニ地平
ラシ外柵取設代

但シ壹坪ニ付金八圓

一金貳千四百圓

右ハ木造洋館二階建事務所三十坪建築代

但シ壹坪ニ付金八拾圓

一金六百圓也

右ハ木造平屋建木形場廿四坪建築代

但シ壹坪ニ付金貳拾五圓

一金八百四拾圓也

右ハ煉瓦造汽鐘及機關室貳拾壹坪建築代

但シ壹坪ニ付金四拾圓

一金參千六百圓也

右ハ木造旋盤場百貳拾坪建築代

但シ壹坪ニ付金參拾圓

一金壹千六百八拾圓也

右ハ木造組立場四拾八坪建築代

但壹坪ニ付金參拾五圓

一金貳千四百圓也

右ハ木造鍛冶兼製鐘場九拾六坪建築代

但シ壹坪ニ付金貳拾五圓

一金壹千四百圓也

右ハ物品納屋其外小建物建築代

合計金貳萬五千七百貳拾圓也

汽鐘及機閘室

一金壹千八百圓也

右ハコルニシ形汽鐘壹個据付代

一金參百五十圓也

右ハ蒸氣唧筒壹臺据付代

一金六百圓也

右ハ煙突壹個築造代

一金壹千七百圓也

右ハ^汽動蒸氣機閘壹臺据付代

合計金四千四百五十圓也

旋盤場

一金壹千八百圓也

右ハ革車及車軸壹揃据付代

一金貳千六百圓也

右ハ第一號形旋盤壹臺据付代

一金千貳百圓也

右ハ第二號形旋盤壹臺据付代

一金八百圓也

右ハ第三號全

一金六百圓也

右ハ第四號全

一金四百五十圓也

右八第五号 全

一金参百圓也

右八第六号 全

一金貳百圓也

右八第七号 全

一金貳千圓也

右八大形鉤盤壹臺据付代

一金八百五十圓也

右八中形 全

一金壹千圓也

右八豎削盤壹臺据付代

一金六百圓也

右八橫削盤壹臺据付代

一金壹千圓也

右八大形錐盤壹臺据付代

一金五百圓也

右八中形錐盤壹臺据付代

一金参百圓也

右八小形 全

一金五百圓也

右八螺旋盤 全

一金貳千圓也

右八内筒旋盤壹臺据付代

一金貳百圓也

右ハ刃物用丸砥石大小貳個据付代
一金百參拾圓也

右ハ刃物用金剛砥丸砥石壹臺据
付代

一金貳百五拾圓也

右ハ磨キ用丸砥石二臺据付代

一金參百六拾圓也

右ハ萬力貳拾挺据付代

一金貳千圓也

右ハ帶草壹揃代

一金參百圓也

右ハ仕上場小道具代

合計金壹萬九千九百四拾圓也

鍛冶及製鑪場

一金壹千圓也

右ハ汽槌壹臺据付代

一金千五百圓也

右ハ鑿孔兼鉸盤壹臺据付代

一金貳千圓也

右ハワラシキ曲ケ器揃壹臺据付代

一金壹千圓也

右ハ板縁削器

全

一金四百圓也

右ハ錐盤壹臺

全

一金千參百圓也

右、鑄板用錐盤壹臺據付代

一金千六百圓也

右、蒸汽銃着器

全

一金五百圓也

右、板曲ヶ器

全

一金四百八拾圓也

右、送風器

全

一金貳百四拾圓也

右、鍛治屋道具壹揃代

一金五百圓也

右、車軸及草車壹揃據付代

一金四百圓也

右、帶草代

合計金壹萬六有貳拾圓也

組立場

一金壹千貳百圓也

右、運行起重器壹臺據付代

一金百貳拾圓也

右、萬力五挺據付代

一金參百五拾圓也

右、綱捲器_{トエン}ブロック_{ブロック}其外代

一金貳百圓也

右、組立用小道具壹揃代

合計金千八百七拾圓也

運搬用具

一金四百圓也

右、鐵路及運送車備付代

一金五百圓也

右、起重器壹基其代

一金貳百圓也

右、綱及綱捲器備付代

合計金壹千五百圓也

鑄造場

一金參千參百圓也

右、煉瓦石造工場六拾坪建築代

但、壹坪、付五拾五圓

一金四百圓也

右、五噸溶解爐壹個据付代

一金貳百圓也

右、二噸溶解爐壹個据付代

一金六百五拾圓也

右、送風器壹基其据付代

但、汽錘及撥閘共

一金貳百圓也

右、真鍮爐壹ヶ所築造代

一金五百円也

右、乾燥室壹ヶ所築造代

一金七百五十円也

右、拾噸起重器壹基据付代

一金參百圓也

右、鑄造用小道具壹揃代

合計金六千參百圓也

惣計金七萬圓也

器械製造所資本及收益豫算

器械製所資本及収益概算

大正十一年四月

池田製

一 金拾萬円也

資本金惣高

内

一 金七萬円也

固定資本金別帛之通

一 金参萬円也

営業資本金

右ノ資本ヲ以テ少クモ壹ヶ年間金参拾万円ノ
營業ヲ為シ營業高ノ八分ノ利益ヲ得ラルベシ
故資本ニ對シ年貳割四分ノ利益トナルノ見込ナリ
製造スヘキ物品カ簡單ナルモノナレハ茲ニ明カニ其
收支豫算ヲ示スヲ得レドモ同レ器械ニモ大

小アリ且ツ其製造スル器械ニモ種々アルヲ以テ
到底其標準ヲ立ル能ハス資金ニ對シ三倍
ノ營業高ヲ仮定シタルハ既ニ存在セル諸鉄
工所ト小生ノ經驗セルトコロヲ以テ推算シタル十
リ當時工業振興之際ナレバ四五馬以下ノ滾
擦炭炭山用唧筒ト工用唧筒ノ如キハ所謂
仕入品ヲ製造シ置クノ利益アルモノ、如シ斯
ノ如キ場合ニハ一層余分ノ流通資金ヲ要ス
ルナリ然レトモ注文仕事ニハ繁閑アルヲ以テ幾
分歟仕入品ヲ製造スルノ必要ナリ

陳情

一大器械製造所設立ノ必要ナルハ別紙中ノ息
見書ニ述ヘタル如クナレトモ莫大ノ資金ト非常
ナル經驗ヲ要スル事業ナルハ容易ニ斯ノ如キ大事
業ニ擔任センメラルヘキ信用ハ未タ得ラザルノ信
ス故ニ別紙中豫算書ノ通り先ツ資本ヲ拾万円ト
シ此内五万円ノ支給ヲ仰ギ予カ所有ノ工場諸器
械ヲ合シ凡壹万円ノ合金六万円ヲ以テ創立シ内
金四万五千元ヲ固定資本ニ充テ陸用滾罐小形
蒸氣擦炭捲上器械蒸氣唧筒(以上三種ハ炭
山用)鑿金山石器、パルトン式水車等ノ簡易ナル

諸器械ヲ製造シ世ノ信用ヲ博シ需用ノ増加ス
ルヲ待テ漸々擴張シテ豫定ノ工場ヲ設立スベシ故ニ
当初ニ必要ノ家屋器械類ニ資金ヲ投シ便宜
キ以テ漸次擴張ノ方法ヲ取リ完成セシムベシ目下
予ガ着目スルニヶ所ノ地所アリ甲ハ其ノ面積壹万
坪ニシテ地代拾壹万円ナリト云正方形ニシテ兩邊ハ
大河ニ面シ停車場ニモ接近セリ乙ハ其ノ面積千三百
坪ニシテ地代拾壹万圓ナリト云三角形ニシテ一邊ハ
運河ニ面ス是又停車場ニ接近セリ甲ハ大ニ過キ
乙ハ小ニ過キ只今計畫スル敷地坪數ニ適合セス
若シ止ムナク右ノ乙地ヲ買収セハ可ナランカ既ニ豫
定ノ資金ヲ以テ設立シ好結果ヲ得テ幸ヒ各位

ノ信用ヲ得ルマズ更ニ進テ一大工場ヲ起シ小生、
素志ヲ母ノ徹セズンハ止マザルベシ器械専門ノ業
ニ當ルモノ予カ学友中其人ニ乏シカラス然レトモ国
家經濟ノ根元ニシテ予カ本職トスル器械製造ニ
熱心ナル者至リテ少ナキガ如シ我ガ崇敬スル關雙
公ノ雄圖夙ニ此ニ着眼セラレタリ予ノ學生タリシ
比赤羽根製作所於テ親シク觀覽シタル巨大ノ
原動機関ハ如蘭ノ製ニシテ我藩ヨリ政府へ獻
納セラレタルモノナリキ殆ント四十年ノ昔ニ於テ我英
明王公ハ器械製造ノ必要ヲ既ニ看破セラレタリ
今ニ至リテハ一層ノ實ニ焦眉ノ急務ナルヲ感ズ然
レトモ我藩ノ人士ニシテ未タ公ノ英旨ヲ奉スルモノナシ

予不肖ナリト虽敢テ此大任ニ当リ上公ノ大志ヲ
奉シ下国民ノ義務ヲ盡サント欲ス厥クハ予ノ
微衷ヲ洞察シ此奉ノ成立ヲ資具ケラレントヲ
希望ス

明治三十三年十月十六日

岡

實康

領省

再揮

岸田口元學殿

々々下

